

春メロン産地の維持と経営強化

～「イバラキング」の普及・栽培技術確立と販売促進活動～

メロンは銚田地域の代表作物ですが、栽培面積は年々減少傾向にあります。鹿行農林事務所経営・普及部門では、メロン産地を活性化するため、消費者ニーズに応える高品質メロンの安定生産、病虫害防除対策の徹底、メロン栽培の経営強化等の課題に取り組みました。

■ 「イバラキング」の生産安定と普及拡大 ■

茨城県オリジナル品種「イバラキング」の高品質・安定生産を図るため、農業総合センター、園芸研究所他関係機関と連携して、栽培講習会、全戸ほ場巡回指導、現地検討会及び適期収穫指導を実施しました。

「イバラキング」は、低温時期の肥大性とさっぱりとした良食味が認められて、J Aかしまなだメロン部会の指定品種となり、部会の栽培面積は6.9ha (34名) から15ha (58名) に拡大しました。また、銚田市内の任意組合においても54a (8名) 栽培されることになりました。



品質向上を目指した栽培講習会

■ 病虫害防除対策の徹底と

施肥指導による安定生産 ■

病虫害防除対策講習会を実施し、防除の徹底を図りました。うどんこ病に効果的な薬剤の選定試験を実施し、治療効果の高い薬剤を選定することができました。この結果を基に、メロン病虫害防除暦を作成して生産者全戸に配布しました。

また、残存窒素量を考慮した基肥施用の指導を行い、施肥前の残存窒素量の過剰割合が38%から31%に改善されました。



メロン病虫害防除暦

■ メロンの消費拡大 ■

J Aかしまなだメロン部会研究部、女性後継者クラブ「ひまわり」が地元直売所で実施したメロンの販売促進活動を支援しました。「イバラキング」と「アンデス5号」を消費者に食べてもらい、アンケート調査を行う事で「食べ頃メロン」に需要があることが分かりました。あわせて、メロン品種別の紹介ポスターを展示したところ、購入の目安になると好評でした。

今後は、アンケートを通じて消費者が求めるメロンについて調査するとともに、消費者が求める食べ頃メロンの販売を実施する計画です。



地元直売所での販売促進活動